

木目や色合いを見て工夫  
好みの色や素材を探して



菊地 覚さん  
1948年生まれ

私が作る商品はカップ類が多いです。自分自身が楽しんで製作していて、木目や色合いによって木材のサイズを変えるなどの工夫をしています。同じものはないので、好みの色や素材を探して、楽しみながら選んでほしいです。私の作ったカップでお茶を飲み、和みの時間を過ごしてもらえたらうれしいですね。



用途により形などを改良  
安全面にも配慮して制作



高橋 秀一さん  
1950年生まれ

皿やボウル、おもちゃを中心に製作しています。皿やボウルは、用途によって使い分けできるように形やサイズを改良しながら作っています。強度を出すために焼いて加工する商品もあります。特に子どもが使うものは、面取りに気を付けるなど、安全に配慮していますので、安心して使ってほしいと思います。



使い勝手の良さ意識する  
長く使えるよう修繕対応



佐々木 喜市さん  
1951年生まれ

私が作る商品は皿やトレーなど、器型のもので多く、皿は使う人のことを考え、縁に少し出っ張りを付けるなど、使い勝手の良さを意識して作っています。せっかく買ってもらった商品は長く使ってほしいので、修繕にも対応します。木のぬくもりを感じながら、多くの人に使ってほしいですね。



商品を買って来てくれる  
その人のために技を磨く



佐々木 賢一さん  
1949年生まれ

職人たちは、美しいデザインや使いやすいサイズなどより良いものを目指し、お互い競争してきました。それぞれの工夫が良い方向に向かったと思います。作品は、100%の仕上がりは難しく、日々努力をしています。お客さんには良いものを提供したいので、商品一つ一つの製作には気が抜けません。



木の特徴を意識して製作  
長く愛着を持って使える



西條 孝一さん  
1948年生まれ

スギやサクラ、クワなどそれぞれの木が持つ特徴を意識しながら、自然の良さが生きること心掛けています。私が作る木工芸品の一番の特徴は削り直してできるものが多いこと。あらかじめ厚めに作ることで、使い古した皿も表面を削り新品のように再利用できます。長く愛着を持って大切に使ってほしいですね。



ぬくもり感じるおもちゃ  
小さなお子さんにも安心



佐々木 正志さん  
1952年生まれ

主におもちゃを製作しています。スギは軽くて柔らか。傷がつきやすい欠点はありますが、冬場でも冷たさを感じにくい素材です。子どもたちが手にした時に、木のぬくもりが伝わるようスギにこだわって製作しています。積み木は塗装せず、口に入れても安心できるように加工。スギの良い感触を感じてほしいです。



繊細な指先の感覚が強み  
手間暇をかけて仕上げる



遠藤 勇一さん  
1957年生まれ

繊細な指先の感覚が自分の強みです。頭に描いた作品は、実物になってみると想像したものと違うことも多いのですが、失敗を繰り返しながら、今の形にたどり着きました。納得できる作品が出来上がるまで、手間暇をかけて仕上げています。趣味ではなく仕事としての責任感を強く持って日々製作に励んでいます。



第2章

存在3

木を生かす達人たち

木工職人の熟練した手仕事により、木工芸品として地域の木材に新たな命が吹き込まれます。どのようなこだわりがあるのでしょうか。

■ GOOD DESIGN賞

2013年度受賞  
もくもくハウス7Dishes「MMH7D」



2014年度受賞  
角盆「Bon」



全てのの人に優しいがコンセプト、多方面で高評価

木と向き合い木の声を聞く職人

津山木工芸品事業協同組合は、もくもくランドの木工芸品を製作する職人たちが構成する組合です。最初にもくもくハウスがオープンした1982年に設立されました。現在、職人は7人いて、私は事務主任として、商品の販売やPRなどを担当しています。

商品の材料は地元産材で、津山に豊富なスギのほか、クルミやサクラなど多種多様です。津山の木工職人は、人を育むように丹精込めて木工芸品を作り上げます。

今や「もくもく」商品の代名詞ともいえる矢羽木工芸品は、組合を設立した年に、当時の職人たちが東北工



津山木工芸品事業協同組合  
事務主任  
阿部 幸恵さん

スギ材の白い箇所と赤い箇所を交互に積み重ね、プレスして圧着し、大きな1枚の板を作ります。

■ 矢羽木工芸品ができるまで



スギ材の白い箇所と赤い箇所を交互に積み重ね、プレスして圧着し、大きな1枚の板を作ります。



プレスした板を木目が斜めに走るように切り、上の面と下の面をプレス機でさらに圧着します。



カットした面を表・裏交互に並べ、再度接着することで、きれいな矢羽模様の板ができます。



手間をかけて作り上げた矢羽模様の板を、商品に合わせてカット・加工し、矢羽木工芸品が出来上がります。

それぞれの思いがこもる品  
多くの人に手にしてほしい



仙台市若林区  
佐藤 和子さん

もくもくランドの木工芸品と出会って30年以上になります。「もくもく」の木工芸品は、材質の柔らかいスギを材料としたものが多いため、小さなお子さんのおもちゃとしても安心して与えられるのがいいですね。子どもから高齢者まで安心して使うことができると思います。

縁あって、2011年に仙台でオープンした「もくもくハウス仙台店」の店長を務めました。そこで多くのお客さまと出会い、グッドデザイン賞を受賞した商品に携われたこと、もあって、「もくもく」は私の人生の中でとても大きな存在です。

オーダーメイドができるのも「もくもく」商品の魅力の一つ。店長をしていた時も多くの注文がありましたが、職人さんたちが高い技術でお客さまの注文にしっかりと応え、質の高い商品を作ってくれました。

「もくもく」の木工芸品は、作る人、販売する人、使う人、それぞれの思いを伝えられると感じています。木目が美しく温かみも感じられる商品です。多くの人に手にしてもらえ、と私もうれしいですね。